

資料

# ふるさと きょうと

はじめに……………	2
交流フォーラムの内容……………	2
都市の交流ニーズと 農村の交流資源……………	3
農村からの活動紹介……………	4
都市からの……………	4
参加者から一言……………	6
マッチング事例……………	8
現地報告 都市との交流で農林業……………	10

2005年 3月発行

No.7

～都市のパートナーを見つけ、元気な農業農村をつくる～

## 「第3回ふるさと交流フォーラム」のまとめ



### 京都ふるさとセンター

住所 〒602-8054  
京都市上京区出水通油小路東入  
丁子風呂町104-2 府庁西別館内  
〈京都府農業会議〉

電話 075-441-3660  
FAX 075-441-5742  
E-mail f-center@agr-k.or.jp  
URL <http://www.agr-k.or.jp>

## はじめに

京都ふるさとセンターは、一月二十九日、京都テルサ（京都市）で、「ふるさと交流フォーラム」を開いた。これは京都の農村地域での「農」や「食」に関心を持ち、農村と交流をしたいという都市のグループと、農村で地域づくりや地域経営づくりをめざす農村のグループが集まり、交流のきっかけを探すというもの。

都市側からは、子どもの教育活動をめざすNPO団体や空き店舗で直売所の開設をめざす商店街振興組合など十五団体二十三人、農村側からは、都市農村交流を通じて村おこしに取り組み農家組合や都市農村交流施設の管理責任者、市町村農業振興公社など二十団体四十二人が参加した。

フォーラムでは、農村グループが準備したパンフレットや自慢の農産物を展示したブースを都市の人が訪問した後、テーマ毎に分かれて継続的な交流の可能性を探る懇談会を行った。

懇談会では、農村側が都市側に提供できる農村資源や交流手法などの資料をもとに、活発な意見交換が進められた。このフォーラムがきっかけとなり、商店街の空き店舗で農産物の直売所の開設の話や、農家民泊による農村体験ツアーの企画づくりなどが始まっている。

本冊子では、フォーラムの様様や、都市農村交流に期待する農村側、都市側の思い、知恵を絞った交流企画の一端などを紹介する。都市農村交流で地域の活性化をめざす方々の参考にしていただきたい。

### 第3回

## ふるさと交流フォーラムの内容

日時 平成17年1月29日（土）

場所 京都テルサ

内容

#### 1. 基調報告

「日本一の田舎づくりをめざして  
美山町における都市農村交流の取り組み」

#### 2. 農村側団体の活動紹介（プレゼンテーション）

#### 3. 「交流・マッチング」タイム

\* 交流ブース（農村側）の訪問・交流

\* 都市側団体の活動紹介

\* マッチングコーナー（商談コーナー）  
での個別懇談

参加団体

・都市側15団体（P. 3、表1参照）

・農村側20団体（P. 3、表2参照）

交流はお互いをよく知ることから始まる  
（農産物を介した分科会から）



さながら、  
集団お見合いという雰囲気！



都市・農村交流にける思いと  
自慢の農産物をアピール



# 都市の交流ニーズと農村の交流資源 (参加者アンケートより)

表1. 都市側

○: ニーズがある ◎: 都市側団体の交流ニーズが強くある △: 関心はある

都市側 団体	交流資源	農村側に期待するニーズ																	
		北大路商店街振興組合	ユースホステル協会	フレスト・きょうと	NPO・生活環境協会関西支部	NPO・楽器部	NPO・木野環境	NPO・京都・こだわりの会	NPO・京都カルチャーレジット	NPO・京都ラジオカフェ(株)	NPO・京の園芸福祉研究会	四條大宮商店街振興組合	NPO・すこやかネットワーク	NPO・高槻ライフケア協会	NPO・農を味わう塾	松田昌子グループ	深尾米穀	NPO・遊悠舎京すずめ	
特色ある農 林水産物・ 地場産品の 提供	農林水産物 等の内容 提供手段	・安全・安心な農産物	○			◎		◎		○			○	◎	◎	◎	◎		
		・循環型農業の生産物	○			◎				○			○	◎	◎	◎	◎	◎	
		・その土地ならではの特色ある農林水産物・地場産品	○			◎			◎		○			○	◎	◎	◎	◎	
子どもの教育	提供手段	・朝市・直売所での販売	○			◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・都市での出張販売	○			◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・通信販売・直売	○			◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・自然・環境教育の場				◎							○	◎	◎	◎	◎		
		・学童農園				◎							○	◎	◎	◎	◎		
農林地資源の活用	提供手段	・キャンプ・屋外体験場所				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・山村留学の受け入れ				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・修学旅行、農家民泊の受け入れ				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・棚田の保全活動				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
農村文化	提供手段	・里山の保全活動				◎						◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		・市民農園・体験農園				◎						○	◎	◎	◎	◎	◎		
		・川・池等の水辺環境				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
施設の利用	提供手段	・地域の食生活・食文化に関わる情報や担い手				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・地域の祭り、伝統芸能、歴史等に関わる情報や担い手				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・合宿・研修の施設・場所			○	◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・スポーツや屋外体験の施設・場所				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
地域の人材	提供手段	・交流や活動の拠点となる空き家等			○								◎	◎	◎	◎	◎		
		・定住のための住宅				◎								◎	◎	◎	◎		
		・農家民宿				◎								◎	◎	◎	◎		
交流に関わる組織・人材	提供手段	・農業の作物や生産技術について教えてもらえる人				◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・食や農に関わる農村暮らしについて教えてもらえる人				◎								◎	◎	◎	◎		
		・地域の伝統技術・文化の伝承者				◎								◎	◎	◎	◎		
その他	提供手段	・都市側の人と一緒に交流活動を企画・推進できる人・組織			◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎		
		・自然・体験教育での地元インストラクター				◎								◎	◎	◎	◎		
その他		(その内容)				◎												伝統産業	

表2. 農村側

○: ニーズがある ◎: 農村側団体の交流資源が強くある △: 関心はある

農村側 団体	交流資源	都市側に提供できる農村資源・手法																						
		越前フレンドパーク	農事組合法人・ボランテニアの会	八幡農業	もねこや	21お茶のふるさと塾	農事組合法人・百姓王国	21創精塾	京北ふるさと公社	きょうと	美山ふるさと(株)	柿の木山	わち山野草の森	あやべ農業友の会	(有)やくの農業振興団	板生興営農組合	運営委員会	匠の郷「やくの高原市」	畑営農組合	緑と伝説の大江塾	世屋のふるさと協議会	大宮アグリ21塾	(有)ジャージー牧場	
特色ある農 林水産物・ 地場産品の 提供	農林水産物 等の内容 提供手段	・安全・安心な農産物						○	○	○		○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
		・循環型農業の生産物									○		○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
		・その土地ならではの特色ある農林水産物・地場産品									◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
子どもの教育	提供手段	・朝市・直売所での販売								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・都市での出張販売									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・通信販売・直売									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		・自然・環境教育の場		◎																				
		・学童農園																						
農林地資源の活用	提供手段	・キャンプ・屋外体験場所								○	○													
		・山村留学の受け入れ																						
		・修学旅行、農家民泊の受け入れ																						
		・棚田の保全活動																						
農村文化	提供手段	・里山の保全活動																						
		・市民農園・体験農園		◎																				
		・川・池等の水辺環境																						
施設の利用	提供手段	・地域の食生活・食文化に関わる情報や担い手		○																				
		・地域の祭り、伝統芸能、歴史等に関わる情報や担い手																						
		・合宿・研修の施設・場所																						
		・スポーツや屋外体験の施設・場所																						
地域の人材	提供手段	・交流や活動の拠点となる空き家等																						
		・定住のための住宅																						
		・農家民宿																						
交流に関わる組織・人材	提供手段	・農業の作物や生産技術について教えてもらえる人																						△
		・食や農に関わる農村暮らしについて教えてもらえる人																						◎
		・地域の伝統技術・文化の伝承者																						◎
その他	提供手段	・都市側の人と一緒に交流活動を企画・推進できる人・組織		○																				◎
		・自然・体験教育での地元インストラクター																						◎
その他		(その内容)																						松茸

## あやべ農業友の会



### プロフィール

代表者：河北 卓也（かわきた たくや）  
 所在：〒623-0037 綾部市並松町上溝口20-3  
 TEL 0773-43-1001 FAX 0773-43-0463  
 E-mail crystal@basil.ocn.ne.jp  
 設立年：2004年(NPO法人)

### 活動目的

綾部市内の農家を中心に、消費者、研究者、公務員などが集まって農業ネットワークを作り、後継者育成や農業技術の共同研究、環境保全、都市農村交流、特産品開発などのテーマに取り組んでいます。

### 交流希望内容

毎年夏に農業体験ツアーを企画しています。

綾部での農業や自然体験などに興味のある都市部の住民との交流のほか、農業・環境・観光などの研究フィールドとして利用したい学生や研究者との交流などを希望しています。

また、都市部のNPO法人との様々な連携の可能性に期待しています。

### 活動内容

#### 農業体験ツアー

（毎年夏に開催。今年は八月）

#### 農政勉強会

#### 農業技術研究

（今年は稲作の布マルチ農法と綾

部産小麦の栽培）

#### 会報の発行

\*正会員 五千円

\*サポート会員 三千円

## わち山野草の森



### プロフィール

代表者：園長 白樫 貢（しらかし みつぎ）  
 所在：〒629-1131 船井郡和知町字坂原小字ツガキ5  
 TEL 0771-84-2041 Email sanyasou@smile.ocn.ne.jp  
 FAX 0771-84-2045 URL <http://www17.ocn.ne.jp/sanyasou/fre-1.htm>  
 設立年：1998年

### 活動目的

6年前、12haの山を切り開き山野草(1000種)の群生地、癒しの森を設立。“自然との共生”を基本のコンセプトに、「山野草の保護」、「山野草の特産化」、「自然体験施設」という3つの目的を持って運営。

### 交流希望内容

地元農家の知恵や技を都会の人に伝え、交流できるよう、農業体験（黒豆栽培）や自然体験（クラフト・散策・植物観察）、植物教室（寄せ植え、苔玉、ガーデニング）、加工体験（黒豆豆腐づくり、柴漬けづくり）を提供しています。

子供から高齢者まで幅広いメニューを設けていますので、気軽に学び・楽しむことができます。

初心者大歓迎の「カヌー体験スクール」も行っていきますので、ぜひ御連絡下さい。

### 活動内容（主な体験）

シイタケ収穫（要予約、十月～四月）

入園料三百円＋百二十円/百g

森のクラフト（年中）

山野草寄せ植え教室（要予約・年中）

栗拾い（要予約・九月中旬～十月中旬）

山野草苔玉教室（要予約・年中）

カヌー体験スクール（要予約・小学

三年生以上）

一艇千円、指導料一人千円

押し花クラフト（要予約・年中）

色紙一人 六百元

八ガキ二百五十円

## エルダー旅倶楽部



## プロフィール

代表者：大社 充（おおこそ みつる）

所在：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-23-13-5D

TEL 03-5469-0680

e-mail info@elder-tabi.jp

FAX 03-5469-0682

URL <http://www.elder-tabi.jp/>

設立年：2004年(NPO法人申請中)1986年に設立したエルダーホテル協会が前身  
活動目的

中高齢者のエンパワーメントを図るため、旅を通じた学習と体験を組み合わせた生涯学習プログラムを企画運営。国内講座事業は年間40～50講座。

海外講座事業は年間10講座。その他(One Day講座)を開講。

## 交流希望内容

米国ではじまったエルダーホステル運動に起源をもち、一九八八年から国内および海外の大学や教育機関をはじめ、自治体や町づくりグループ、NPOなどと提携して、体験型学習および体験・交流プログラムを編成しています。

そこで、都市住民が参加できる、京都の農村地域の資源（人・自然・文化等）を活かした交流・学習プログラムを企画運営して下さる団体を探しています。

継続した講座の企画を受け入れています。（連続講座・毎年講座）詳しくはエルダー旅倶楽部のホームページをご覧ください。資料をご請求ください。

## 活動内容

冬の十勝講座

「湖上の氷の村『然別湖コタン』と熱気球フリーフライト十勝の空を飛び、氷上の村を訪ねる」

世代を超えて楽しむ清里講座

「清里高原の牧場で 乗馬体験とファームステイ」

京都ONE DAY講座

「京町屋の暮らしを訪ねる 伝統とときたりにふれる」

## 四条大宮商店街振興組合



## プロフィール

代表者：理事長 石田 哲雄（いしだ てつお）

所在：〒600-8490 京都市下京区四条通大宮東入ル立中町478

鳥居ビル6F

TEL/FAX 075-821-4901

E-mail o ce@4jo.or.jp

URL <http://www.4jo.or.jp>

設立年：1955年 加盟店舗72店

## 活動目的

四条大宮の商店街の振興を通じた地域の活性化。

## 交流希望内容

商店街振興のため、加盟店舗に農村の特色ある商品や商品情報の提供を考えています。また、商店街おこしのイベントや空き店舗対策に農村の特産品の出店者を募っています。

さらに、意欲ある農村団体に、平成十七年十一月二十一日に開催を予定している京都商店街振興組合連合会のイベント（京都市勤業館みやこめっせ）で実施するチャレンジショップに出展していただき、その後、商店街の空き店舗で一年間販売するというビジネスチャンスをつかんでほしいです。

出店にあたっては、モノの売り買いだけでなく、作り手の気持ちが変わり、その地域のファンになってもらうネットワークづくりを重視していきたいと思っています。

## 活動紹介

商店の宣伝活動

商店街おこし

「ONE・DAY・PARK 2004」

（七月十四日開催）

# フォーラム参加者から一言

本当においしいお茶づくりに取り組んでいます 農事組合法人百姓王国 理事 杉本 由己さん

和束町で、若いスタッフが中心となり伝統的な茶づくりをしています。自分たちで作った自信作を味わってもらいたいと考え、様々な交流を模索しています。始めて五年経ち、ようやく安定してきました。摘み取り時期には京阪神など都市から募った人たちも一緒に働いてもらっています。昨年から、京丹後市久美浜町の丹後国営農地でもお茶づくりを始めました。京丹後市久美浜町では初の茶づくりです。現在十ヘクタール、今後、五〇ヘクタールへと広がっていく予定で、五年後の収穫を目標にがんばっています。

お茶をよりおいしく飲んでもらうための情報提供も行っています。お茶の栽培だけにとどまらず、地元の米・野菜などを販売する青空市場など、様々な活動に取り組んでいます。都市と農村では価値観の相違もありませんが、そんななかで都市団体から課題を与えてもらって共に考えていきたいと思っています。



農事組合「百姓王国」  
(代表：村田良光)  
和束町字杣田  
TEL：0774-99-6121  
FAX：0774-99-6122

活動 茶業の経営(茶葉の生産、加工販売)、茶園の作業受託等。青空市場で、地域農産物の販売受託。交流希望内容 茶の木を育て、収穫し、製茶まで全て自分たちで行った自信作を提供したい。また、日本茶インストラクターによるお茶の普及や様々な交流を模索中。特産品 自信のお茶(水出し煎茶、かぶせ煎茶、ほうじ茶スモーキー、うじひかり等)。

農林業と商工観光で都市との交流を図っています 夜久野町役場産業振興課 課長 氷上 正喜さん

夜久野町では、農林業と商工観光を結んで、都市との交流を積極的に行っています。平成十年には、「農匠の郷やくの」を設立し、農村と都市の交流を通じて、夜久野産の農林産物のPRと町の活性化を図っています。

その中の施設のひとつ、「やくの高原市」を運営するのが、「匠の郷やくの高原市運営委員会」。新鮮で安全な農産物の販売やイベントで実績をあげています。

また、「やくの農業振興団」では、農作業や収穫体験を実施。農作業などをセラピーに取り入れて、引きこもりの方の社会復帰の支援なども行っています。「畑営農組合」では収穫・加工体験や農産物直売施設の運営、「板生奥営農組合」では農産物の販売と共に、体験施設などで子どもたちとの交流にも取り組んでいます。

いずれの団体も意欲的です。都市側の方には、じっくりと長く続く関係をつくっていただけるようにお願いします。



夜久野町  
(有)やくの農業振興団  
(代表：中島俊則)  
特産品 貸し農園、農業収穫体験  
(芋、サツマイモ、黒大豆、トウモロコシ等) 鹿などの野生動物のウォッチング。  
板生奥営農組合  
(代表：小林嘉一)  
特産品 緑の里交流センター(体験施設)  
畑営農組合(代表：越後均)  
特産品 畑運動広場(キャンプ可) 円満院(あじさい寺) 今里マス釣り場、金尾区(ことはじめ)、八幡神社の祭り  
匠の郷 やくの高原市運営委員会(代表：山田道生)  
特産品 四季折々のイベントの開催(餅つき、ぜんざい、節分の豆まき、スイカ割り、大根煮)

丹後の食と農を体験できる場を提供します (有)丹後ジャージー牧場 代表取締役 平林 衛さん

牧場では、ジャージー牛を三〇頭飼っています。一年前に、牧場の中にミルク工房「そら」をオープンし、ジャージー牛から搾った牛乳で、アイスクリーム、ソフトクリーム、チーズを製造し、販売しています。おいしくて、無添加・低添加物、卵を使わないのでアレルギーにも安心です。アイスクリームには、地元の旬の果物や野菜を使って、丹後のよさをアピールしています。

また、毎年、精華大学から研修生を受け入れると共に、地元の小・中学生、企業の体験学習を受け入れてきました。

都市に、食や農を体験できる場を提供します。また、販売可能などころへはどこへでも出向いていきます。新鮮な原料を活かした素朴なモノづくりを理解してもらえ、都市の団体との交流を望んでいます。お互いに行けることから交流を深めていければと、大いに期待しています。



(有)丹後ジャージー牧場  
ミルク工房「そら」  
(代表：平泉衛)  
京丹後市久美浜  
TEL：0772-83-1617  
FAX：0772-83-1617  
<http://www5.nkansai.ne.jp/shop/tango-jersey/>

活動 都市農村との交流。小中学生などの研修・体験学習を実施することで、食農教育の場としての体験交流を実施。交流希望 京都市付近の大学や専門学校から研修生を受け入れる等して、食や農を体験できる場を提供したい。  
特産品 ジャージー乳を使用したアイスクリーム、チーズ。

## 地産地消の野菜のアンテナショップをつくりたい

北大路商店街振興組合 理事 相原 満さん

北大路商店街は、商店街というものの、新鮮産品を扱っている店が鮮魚店、川魚店、果物店だけしかない商店街です。かつては八百屋さんもあったのですが、今はなく、お客様は近隣のスーパーなどへ自転車で買に行かれています。新鮮な野菜が欲しいというお客様の声を背景に、日常に使っていただける野菜を提供したいと考え、現在、空き店舗になっているところを活用して、地産地消を目的に野菜を販売するアンテナショップを設けようとして計画しています。

場を提供することで、農村側の意欲も出てくるでしょうし、お客様の要望にこたえることで私どもの商店街の振興にも結びつくでしょう。今年の秋、十月、十一月の実現に向けて、京都ふるさとセンターに仲介をお願いして、農村との話し合いをしています。



北大路商店街振興組合  
(代表：相原満)  
京都市北区  
TEL：075-491-0801  
FAX：075-491-0288

活動 商店街の振興。町並みの整備。  
交流希望 地産地消：消費者側からの意見も農村側に聞いていただきたい。週1回でいいので朝市計画(例)土曜朝市=場所は山城地域や南丹地域との交流を希望。

## 大宮町のすばらしい農産物を広めています

松田昌子グループ 松田 昌子さん

縁があつて大宮町の役場の方と知り合い、交流が始まりました。農家と購入者を結ぶサポーター役として、大宮町の米や、黒豆、チューリップなどの農産物を、周辺の方々にインターネットを使って紹介したところ、好評で、次第に広がりを見せていきました。その後、大宮町のお米のおいしさを認めた市内のお米屋さんが、そのすばらしさを知らせたいと、熱心に販売されています。今、数軒の農家の方と共に、減農薬の基準をつくり、新しい米を作つて販売する計画を進めています。

農村側は早急に販売に結びつけたいと考えるばかりではなく無農薬や減農薬などの農産物の知識を都市に伝え、また、都市側からも農家を支援できる知恵を提供する。こつした信頼関係を築きながら交流する必要があると考えています。今後、大宮町以外の地区の方とも交流していければと思っています。



松田昌子グループ  
(代表：松田昌子)  
京都市上京区  
TEL：075-414-2403  
FAX：075-414-2403

活動 都市と農村の文化交流  
交流希望 農村の産物、知恵等々、都市側の方々に知らせて交流を深める事。

## 環境事業に積極的に取り組んでいます

京都ラジオカフェ(株) 代表取締役社長 福井 文雄さん

地域のネットワークづくりのために、京都市内でFM放送を流しています。日本で初めて放送免許を取つて活動しているNPO法人です。

FM放送と共に、事業の二大柱の一つと位置づけているのが環境事業です。その一環として「食」と「農」による協働活動を通して、伝統や技を伝え、地域のネットワークをつくらうと「スロースタイル市」と名づけた市を企画しています。

五月初旬には愛知万博市民プロジェクトに参加して、名古屋でゴミを出さないイベントを開催するとともに、京都では三条京阪にある壇王法林寺でフリーマーケットを実施する予定です。この市を、今後、月一回開催しながら、定着させたい。

農村との交流を深めながら、「スロースタイル市」で農産物を直売していただくようにご案内していきたいと思っています。



京都ラジオカフェ(株)  
(代表：福井文雄)  
京都市中京区  
TEL：075-253-6900  
FAX：075-253-6901  
<http://www.radiocafe.jp/>

活動 NPO京都コミュニティ放送を支援する会社  
交流希望 「食」と「農」の協働活動を通じて「伝統」と「技」を受け継ぎ、交流を深められる「スロースタイル市」を開設するので、農産物の直売を手がける団体に参加してほしい。

夜久野町・板生奥営農組合⇨京都子どもセンター

## 息の永い交流で 信頼関係を創りむらを活性化



「緑の里交流センター」を拠点に交流がすすむ

交流の可能性を話し合った。

その会で、「都市と農村の交流は人と人の信頼関係がないと長続きしない。そのためには、まずお互いをよく知ること。よかつたら、夜久野町に来てください」という夜久野の誘いに、快く応えたのが京都子どもセンターであった。

その秋、センターの役員四人と子ども達のリーダー役となる青年三人が、自然体験学校の可能性をさぐるため夜久野町を訪ねた。交流会場となった同町板生奥の「緑の里交流センター」で現地の人達から話しを聞き、リーダーの指導でうどんづくりを楽しみ、現地を見て回った。

子どもセンターの役員の一人は、「夜久野の温かいもてなしに感激したし、古くから地域の伝統技術や指導を受けられるとの話しに、センターの活動も広がりそうだと考えた」と参加の感想を語る。

### 農産物の産直も始まる

その後、子どもセンターが同地区の営農組合と一緒に企画した雪山合宿や農家民泊などに、多くの親や子ども達が参加した。

そんな交流を通じて、「地元の人に甘えているだけでは申し訳ない。夜久野町の方々に役にたつことができないか」と始まったのが米の産直だ。センターの役員が中心となり会員から注文をとる。現在二つのグループが、月八十kgの米を板生奥営農組合から取り寄せる。「作り手の顔が見えるし、第一、味がいい」と評判だ。

子どもセンターでは、板生奥地区の米だけでなく町内の野菜の産直購入に向けた検討も始まっている。また、青年達からは、昨年、府北部が台風被害を被ったというニュースに、「復興のお手伝いをしたい」と同町に電話を入れるという事態も生まれている。その時は、「もし来てくれるならば、被害の大きい周辺町村を手伝って欲しい」という同町の配慮に応え、周辺町にボランティアに入った。

### 交流センターの共同経営も構想

いま、夜久野町では、来年始めの市町合併を前に、施設の民間委託の話が進んでいる。板生奥地区の「緑の里交流センター」も民間委託が計画されている。同町では、地元の営農組合に受け皿の打診を行ったが、営農組合では、当初、高齢化が進み受ける体制がないと難色を示したが、その後、子どもセンターと共同して引き受けようという議論に進んでいる。現在、この対応をどうするか、双方で検討が始まっている。地道な交流の積み重ねが、板生奥地区の活性化の新しい芽を育てている。

#### 【京都子どもセンター】

本物の劇場文化を子ども達に提供したいと70年代に京都南部で誕生した親子劇場が母体。親と子が一緒に文化を育むことをモットーとし、最近では、自然体験学習などにも取り組む。京都市、乙訓、宇治・城陽を中心に9つのブロックがあり、各ブロックの役員が中心となり現在の組織を築き上げた。

#### 【夜久野町板生奥営農組合】

農家数34戸の板生奥地区で、共同作業で地域の農地を守り、地域農業の活性化に取り組む。同地区には、今は閉鎖された「現世スキー場」の跡地を活かして「緑の里交流センター」が平成12年に建設された。



子どもセンターでは、毎年子ども達と青年リーダーが無人島一週間キャンプに取り組む

京都市・深尾米穀 〓 大宮アグリ 21

## 地道な交流で

# 米のブランド化を実現

偶然の出会いが

人と人を結びつけ……

「地域を元気にするにはまず、そこに暮らす人がその地域を楽しいところと自信をもつことから」 そんな理念のもと、京丹後市大宮町常吉地域ではむらづくりに取り組み真っ最中だった。

その取組みのひとつが「パンプキン・フエスティバル」だ。町内の農家で作ったジャンボポチャの大きさを競うコンテストが開かれ、出店が並び、地域の人も訪れた人も楽しく盛り上がるという催し。平成十年、スタッフは広くPRしようとNHK京



京都市内の絵画サークルが大宮町を訪れたのが交流のきっかけ（ブナ林散策ツアー）

都放送局に向いた時、偶然に出会ったのが、日本画のカルチャー教室に通う松田昌子さん。

「大宮町にはすばらしいブナ林があります。ぜひ来てください……」

地域を自信ありげにアピールするスタッフ達。数年後、この出会いが大きな展開をみせようなどと誰が予測しただろう。

松田さんとカルチャー教室の講師だった画家の松崎良太さんは教室の受講生らとともに、足繁く同町内山のブナ林に通いスケッチをする傍ら、大宮のむらづくりリーダー達と親しく交流、行き来するようになっていった。時には地元の人たちもいっしょにブナ林に入り、意外や意外「大宮にこんなところがあったのか!」と新たな発見をする。そんな交流が続いた。

### 一気に燃え上がった交流の火種

交流の火種が一気に燃え上がったのは、平成十三年から二か年にわたって行われた京都府の支援事業がきっかけだ。「共育の里づくり事業」と名付けられたその事業は、「農村の人はもちろん、都市の人も含

め、共同で農山漁村を育てましよう。そのために農村のファンづくりを支援しましよう」というもの。

町内の各地域でむらづくりに取り組む組織や大宮アグリ21などの地元グループとこれまで大宮に通い続けたカルチャー教室の面々。さらにはその知人達。ブナ林散策ツアー、そば、山芋の収穫体験、伝統食「亥の子料理」体験……。町をあげてのお付き合いが始まった。

### 心の交流が、

### 地域農業・経済を支える交流に

さらに交流は新たな展開をみせる。

大宮アグリ21のメンバーとして一連の交流に参加していた五十河地区の米農家、由村幹夫・愛子さん夫妻と松田昌子さんとの出会いだ。由村さんの米を食べた松田さんの夫、進さんは、そのおいしさに感銘。税理士をしている進さんは、顧客である深尾米穀にその情報を提供することとなる。ブナ林から湧き出る水と五十河地区の気候、そして永年、専業農家として培った由村氏の栽培技術。由村夫妻の米はまさに、深尾米穀が永年探し求めていた米そのものだった。「京の宮御膳」と銘打たれ、大宮五十河ブランドとして売り出されることとなったのは平成十五年のことだった。

現在、由村氏は地域の農家に呼びかけ、五十河の米「京の宮御膳」を地域をあげて生産する準備をしている。



深尾米穀の登録商標として人気の「京の宮御膳」

#### 【株式会社深尾米穀】

古くから京都市内に店舗を構え、営業している米穀店。産地ごとの特長を出して売るためまた、「消費者に自信をもって商品を勧めるには、生産者の情熱や姿勢を酌むことが必要」との想いから顔の見える取り引きをモットーにしている。特に京都産のコメの販売に力を入れている。

#### 【大宮アグリ 21】

京丹後市大宮町で村づくり運動のリーダー養成と町の活性化構想の企画立案および提言活動に取り組むふるさとづくり塾。平成11年に誕生し、地域の交流販売拠点（常吉百姓百貨店、谷内ファームなど）の設立支援などを通じて地域農業の新しい展望を切り開いている。

# 都市との交流で農林業を振興

日本一の田舎づくり

美山町平屋地域振興会 事務局長 小島和幸

## 地域づくりの歩み

はじめまして。私は役場の職員で、住民の自治組織である平屋地域振興会の事務局長をしております。今日は、都市農村交流を通じて農林業振興をすすめています美山町の取り組みを紹介させていただきます。

美山町では、昭和五十三年頃から圃場整備事業とともに、農業の基盤整備と集落営農組織の育成などに取り組みましたが、平成に入り、農産加工、特産開発、朝市などと併せて都市農村交流事業に本格的に取り組むようになりました。

平成元年には、役場に村おこし課を設置し、また旧村ごとには村おこし推進委員会を立ち上げました。都市交流の拠点として、



日本一の田舎づくりをめざす美山町

町営の宿泊施設、美山町自然文化村も開業させました。平成五年には茅葺き民家や環境の保全を目的に、美しい町づくり条例というようなこともかけました。そのころから、都市農村交流がすすむようになり、都市部の美山ファンを中心に誕生した「茅葺きの里・美山と交流する会」というような会もできました。

自然文化村では、原生林ハイキングツアー、写真撮影会、野草教室などいろいろ企画をいたしまして、多くのリピーターを確保しました。自然文化村の利用者数も年々増加し、平成八年には年間十万人を突破し、売り上げは、昨年度には約二億九〇〇万円となっています。現在、厨房や、客室の大規模改修を行い、この四月にはリニューアルオープンして受け入れ体制を整えています。

## 都市農村交流による産業おこし

地域産業の振興面では、平成四年

に第三セクター美山ふるさと株式会社を設立して、公的な不動産の斡旋により、多くの定住者を受け入れていきます。昨年度末までに七十八世帯二五七人が、ふるさと株式会社を通じて美山町に入っていたできました。現在では美山の特産品としての牛乳や漬け物などの加工販売、京都市内でのアンテナショップも経営しており、昨年度の売り上げは四億七〇〇万円になっています。また、平成七年には町内二番目の第三セクター美山名水株式会社を設立し、お茶とか水の製造・販売をして、年間十億の売り上げをあげていますし、雇用確保にも貢献しています。

## 地域振興会で住民自治の挑戦

私どもが目指しているもう一つの柱は、新しい住民自治への挑戦です。町内の自治組織を見ますと、リーダーの高齢化とか役職の重複等が問題となってきましたし、平成十二年当時、農協の合併とそれに対応した住民出資

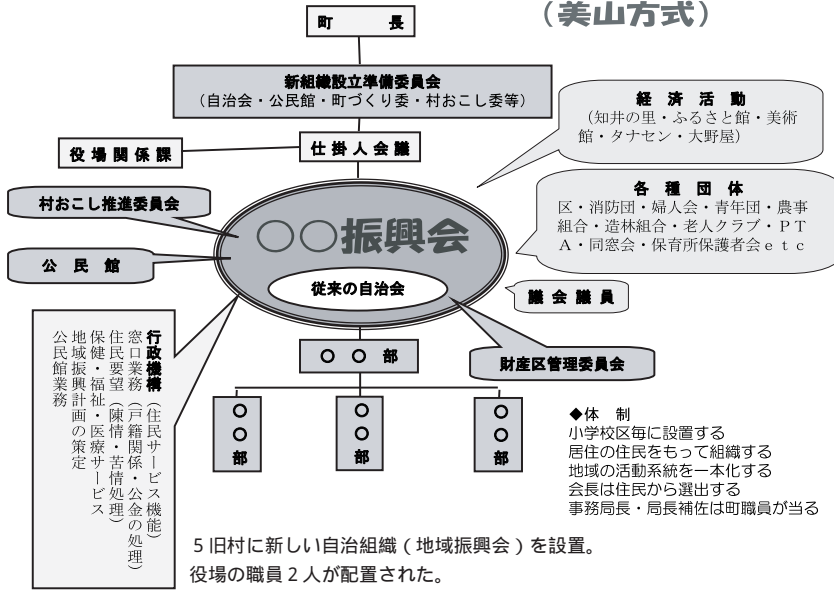


都市農村交流の拠点施設 美山町自然文化村「河鹿荘」

の会社の誕生といった動きがあったなかで、もう一度村や集落が活性化しないと町全体がつぶれてしまうという危機感がありました。そこで町のほうから、それまでにあった自治会や村おこし推進委員会、それから公民館といった住民組織をいっぺんつぶして、新しい自治組織として、旧村を核とした地域振興会制度という仕組みを提案させていただきました。行政と住民の方が一緒になって地域づくりをめざそうという仕組みです。行政側の支援としては、そういった住民の皆さんの組織に町の職員を常駐させ、職員に一定の権限を与える。予算についても活動の高低によっても配分するということになりました。

住民の方々からは、行政主導の自

## 21世紀に向けたの 新しい地方自治体の組織づくり (美山方式)



た二〇人の方が役員として活動をしていきます。会計は、各戸当たり年間二〇〇〇円と、町のほつから二〇〇〇万円の補助ということで運営をしています。振興会では、住民票の発行や戸籍、公共事業の要望の窓口といった住民サービス提供と、それから地域の振興づくり、人づくりというようなことを目的に活動をしています。いま、それぞれの振興会では、都市農村交流を進めながら、地域特産物の開発や直売所などの地域産業の育成に取り組んでいます。

こうした取り組みの中で、町全体を見ると、観光客は、平成の十五年度には、七〇万人を突破しまして、この二〇年間に六倍にまでなっています。

その意味では、美山町の農林業は、多く都市の方々に支えられていると思っています。



平屋地区の住民の共同出資で設立された直売施設「ふらっと美山」

住民の力で美山ブランドを磨く

これからどうするかですが、残念ながら美山町では今後、人口増は望めないという現実を踏まえた時、これまでもすすめてきました都市との交流と連動させた農林業の振興、日本一の田舎づくりの挑戦こそが、本町のすすむべき方向だと思っています。

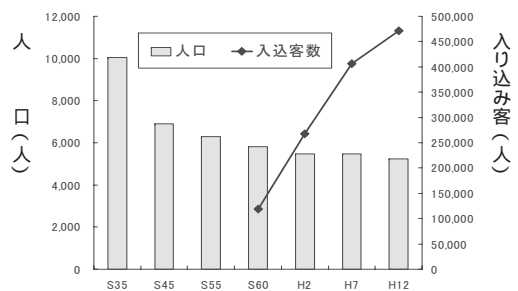
そのためには、美山ブランドをもっと磨いていかなければならないと思っています。四季折々の表情を持つ美しい自然景観、地域の宝としての歴史的遺産、人から人へ脈々と伝えられる伝統的文化、暮らしを支え、暮らしを守る地域産業、昔、現在、そして未来へ受け継がれる伝統食、心を触れ合う

このブランドを創ってきたのは住民の皆様の地域づくりの取り組みでしたが、今を生きる私たちは、これまでの半世紀に及ぶ地域づくりの取り組みを継承して、これからは磨きあげていかねばならないと考えております。

美山ブームの今こそ、日本一の田舎づくりを、都市の美山ファンの方々の力も借りながら、新しい時代にふさわしい全国に通用する美山ブランドとして一層磨きあげていかなければならないと思っています。

交流産業、多くの方に支持され人気の特産品、いつまでも残したい古き良き町並み、心を癒し、なごませる年中行事、全てが美山のブランドになっています。

### 美山町の人口と入り込み客の推移



平成 15 年度には  
交流人口は 70 万人、住民一人あたりでは 130 人にもなる。

## 都市・農村交流施設

# ◆◆◆ おすすめスポット ◆◆◆

### 越畑フレンドパーク「まつばら」



そば粉は毎日吟味してブレンドするといったこだわりの十割蕎麦が味わえるほか、酒造りもできる酒米のオーナー農園や貸し農園を提供。

〒616-8483 京都市右京区嵯峨越畑鍋浦  
TEL 0771-44-2700 FAX 0771-44-2701  
火曜日定休

### やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」



時代劇映画のロケ地である有名な「流れ橋」のたもとにある施設。温泉やレストランでくつろげ、安心して美味しい加工品や各種体験も人気。

〒614-8173 八幡市上津屋里垣内56-1  
TEL 075-983-0129 FAX 075-983-0179  
月曜日定休

### 京都縦貫道園部ICすぐの道の駅「道の駅」



京都縦貫道園部ICすぐの便利な道の駅。「キクナうどん」など地元自慢の商品を提供。季節ごとのイベントやふるさと直送便も人気。

〒622-0025 船井郡園部町曾我谷縄手  
TEL 0771-68-1100 FAX 0771-68-1101  
水曜日定休

### ささゆりの里道の駅「和」



京阪神と日本海のちょうど中間地点にある国道27号線沿いの道の駅。由良川を一望できるレストランや、川沿いでの鮎料理も味わえます。

〒629-1131 船井郡和知町坂原  
TEL 0771-84-1008 FAX 0771-84-1579  
火曜日定休

### 農匠の郷やくの



夜久野高原野菜は京阪神からもわざわざ買いに来るほどの人気。やくのの伝統を守る漆館やあずき館では匠の技が体験できる。

〒629-1322 天田郡夜久野町字平野  
TEL 0773-38-9800 FAX 0773-38-9210  
水曜日定休

### 浦嶋公園



伊根町本庄海水浴場の近くに位置し、手打ちの筒川そばや、新鮮な海と山の幸のバーベキューがお勧め。売店では週1回の鮮魚販売が人気。

〒626-0403 与謝郡伊根町字本庄浜  
TEL 0772-33-5225 FAX 0772-33-0670  
水曜日定休

### リフレかやの里



健康をテーマに、体の外から中からのリフレッシュできるよう、ハーブをふんだんに使った料理(フルコース有)やハーブ風呂を提供。

〒629-2421 与謝郡加悦町金屋1730  
TEL 0772-44-3111 FAX 0772-44-3113  
定休日無し

### 畔蔵



国道312号線沿いの地域に愛されたアットホームな雰囲気を出し出す農産物・加工品の直売所。「杵つきうるち餅」各種はやわらかくて絶品。

〒629-2532 京丹後市大宮町谷内2349  
TEL 0772-68-1398 FAX 0772-68-1402  
定休日?

### 天女の里



来客者に様々な驚きと心配りをほどこす支配人。囲炉裏のあるコテージは人気で、予約が困難。夏場は川を見下ろせるキャンプ場も人気。

〒627-0053 京丹後市峰山町鱒留1642  
TEL 0772-62-7720 FAX 0772-62-7721  
定休日無し

### 丹後ジャージー牧場ミルク工房そら



絞りたてのジャージー乳を100%使用したソフトクリームやチーズなど、様々な乳製品をとりそろえる。ジャージー牛と触れあえる体験や、研修等も受付

〒629-3441 京丹後市久美浜町神崎41  
TEL&FAX 0772-83-1617  
木曜日定休

### くみはまSANKAIKAN



海と山の地元食材豊富な施設。レストランで食べるご飯はすべて丹後コシヒカリ。「地元産しか使わない」という定食は安価でボリュームたっぷり。

〒629-3438 京丹後市久美浜町浦明  
TEL 0772-83-2000 FAX 0772-83-2001  
定休日無し

<http://www.agr-k.or.jp/~kyoto-j/index.shtml>

詳しくは、京都ふるさとセンターのホームページをご覧ください。

都市農村施設情報  
食べる・遊ぶ・学ぶ